



先輩の声

熊本赤十字病院では、事務職員として約200名（男性80名、女性120名）が働いています。事務部は様々な部署でキャリアを積む総合職や社会福祉士・診療情報管理士・情報システム系職員のような専門的なキャリアを深めていく専門職に分かれています。

皆さんの中には「医療施設では医師や看護師などの医療職が中心であり、事務職というのは、縁の下の力持ちである」というイメージを持たれている方もいらっしゃるかもしれませんが、当院の事務職は、病院の将来設計構想、経営戦略をはじめ、様々な事業で中心となって活躍しています。

業務内容としては、人事・総務・会計・用度・企画・広報のように他の企業でもあるような業務や、病院ならではの医事・診療支援・救急業務・地域医療推進・医療社会事業などの業務もあり、幅広いフィールドで仕事をすることができます。

事務職員の平均年齢は約35歳で、非常に活気のある職場です。福利厚生も充実しており、大変働きやすい環境が整っています。また、サークル活動が盛んで、野球・フットサル・バレー・駅伝・テニス・卓球は全国の赤十字施設が参加するスポーツ大会でも常に上位入賞を果たしています。

仕事も趣味も一生懸命頑張れる、そんな素晴らしい職場で一緒に働きましょう！

人事課

古庄 豊全 [平成24年入社]



入社後2年間は、器材管理課で主に手術・検査・処置に使用する医療機器や鋼製器具の洗浄・滅菌業務、各病棟への滅菌物の供給業務に携わり、3年目から7年目には、購入管理課で医薬品、医療機器、診療材料、日用品等、病院で使用するあらゆる物品の購入・管理業務を行ってきました。

8年目に現在所属している人事課に配属となり、事務職員の採用(就職説明会の開催・応募者の管理・採用試験の調整)、職員の健康診断・宿舎に関する調整・管理業務を担当しています。人事課に配属になり、入社して7年間行っていた『モノ』に関する仕事から、『人』に関する仕事へ変わったことで、戸惑うことも多々ありますが、採用から退職まで院内外で職員一人ひとりの生活をサポートする部署として大きな責任とやりがいを感じています。

業務以外のサークル活動では、フットサル部に所属しており、医師、看護師、コメディカルなど様々な職種のメンバーとボールを蹴りながら事務部の枠を越えて交流を深めています。

諏訪 日光 [平成24年入社]

総務課

入社後5年間は診療支援課で医師事務作業補助(診断書作成)やカルテ開示業務を行いました。膨大な数の患者情報を保管している部署で、診療情報の管理の大切さや、多くの医療用語、疾患に対しての治療法などを学ぶことができました。

6年目から総務課に配属となり、庶務係として病院全体の運営や会議の管理、院内外との連絡調整等を中心に業務を行っています。他部署との違いは、業務を行う中で自然と病院全体のことが理解できるということです。これまでは見えていなかった、病院の深いところまで知ることができるため、一つ一つの業務に関心とやりがいを持って取り組んでいます。

また、業務以外では軟式野球部に所属しており、毎週末専用グラウンドで汗を流しています。週末に自分の好きなことを思う存分できるので、仕事とのメリハリができ、業務にとっても集中しやすい環境です。

様々な職種と関わる中で、迅速な対応を求められるのが総務課です。これまで培ってきたコミュニケーション力やフットワークを活かして、これからも病院の中心的存在となって病院経営に携わっていきます。



会計課

川原 大樹 [平成28年入社]



(写真右)

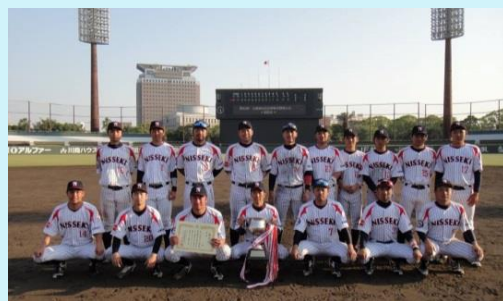
私が所属している会計課では病院のお金の出入りの管理、手続きを行います。日常業務では各種経費、税金、給与等の支払い手続きをしています。また、年次の業務としては予算・決算の作成があります。予算編成時には来年度病院がどれくらいの収益をあげ、どれくらいの費用がかかるのかを他部署とコミュニケーションをとりつつ、様々な要因を考慮しながら考えていきます。決算時には該当年度の収益、費用等を集計し、1年間での病院経営の結果をまとめます。この決算値が病院の今後の方針を決めるための重要な指標となります。会計課では日常生活では馴染みのない大きな額のお金を扱うのでその分責任も大きいですが、経営視点での業務ができるため、とてもやりがいを感じることができると思います。

このような業務内容から、堅いイメージを持たれる会計課ですが、課員みんなで明るく楽しく業務に取り組んでおり、とても風通しが良く活気のある職場環境です。また、社会人として働いていく上ではオン・オフの切り替えも重要です。休日には所属するフットサル部の練習で汗を流したり、趣味のキャンプや釣りに行ったりして、リフレッシュしています。



現在所属している外来業務課では、各診療科の窓口業務や外来患者さんの診療費の計算、保険請求業務を主な仕事としています。窓口業務ではまず患者さんの受付をし保険証の確認後、検査の予約が入っている方に検査の案内をします。検査には血液検査やMRI・CT等の画像診断、心電図等の生理検査など多くの種類があるため、間違いが無いよう丁寧な案内を日ごろから心がけています。そして診療が終了した患者さんの診療費の計算を行い会計へ案内します。その日の外来診療が終了した後は診断書や診療情報提書等の書類の処理や、保険請求のためのレセプトのチェックを行います。業務中は多くの患者さんと接するのでコミュニケーション能力が必要とされ、不測の事態には臨機応変に対応しなくてはなりません。入社当初は慣れない医療用語や専門知識に戸惑いましたが、上司や先輩、他職種の方々に助けをもらいながら日々業務に取り組んできました。

サークル活動では、野球部に所属しており休日は野球の練習や試合に励んでいます。また赤十字スポーツ大会をはじめ、様々な大会やイベント活動を通して多くの方々と交流を深めることで仕事のプラスとなっています。



入社して1～2年目までは外来業務課、3年目からは入院業務課に配属になり、業務を行っています。外来業務課では、主に外来窓口での対応、診療終了後の医療費の算定、保険請求業務等を行っていました。同じ外来窓口を2年間担当したこともあり、時間の経過とともに患者さんから顔を覚えて頂けたり、話しかけて頂けたりすることも増えてきて、とても充実した2年間でした。

3年目からは入院業務課に配属になり、引き続き保険請求業務や、算定のチェック業務等を行っています。外来業務課と入院業務課、同じ「医事業務」を行っていますが、同じところがあれば、違うこともたくさんあります。外来業務課での経験を入院業務課の業務に結びつけながら、周りの先輩方に助けて頂きながら業務を行っています。また、学生時代に診療情報管理士の勉強をしていたこともあり、院外のDPC研修等にも参加させていただいています。今後、DPCの業務にも携われればと思っています。



業務以外では駅伝部に所属しており、各地で行われるマラソン大会や駅伝に参加しています。各地の雰囲気・景色を楽しみながら走るのも魅力ですが、事務部以外の他職種の職員と交流できるのも魅力です。



企画開発課は病院の将来計画(運営戦略)の企画・立案等を行う開発係、院内のコンピューターシステムの運用および管理等を行うIT係、病院の広報業務を行う広報係があり、私は開発係に所属しています。開発係では病院機能の充実にかかる総合的な企画・立案、診療報酬改定など医療制度等の改正に伴う運営方針の協議、病院運営にかかる大きなプロジェクトの事務局業務などを行っています。以前、外来業務課に3年間所属し、主に外来での窓口対応などを行っていました。開発係に異動したことで業務内容が大きく変わり、かなり戸惑いましたが、上司や先輩に助けてもらいながら業務を行っています。また業務内容も病院全体に関わる重要なものが多く、日々勉強しながら知識を身につけることができ、とてもやりがいがあると感じています。

業務以外では、軟式野球部に所属しており、休日に練習や試合に参加しています。心身ともにリフレッシュでき、また看護師やコメディカルなど他職種との交流もあり、楽しく活動しています

企画開発課IT係では、IT機器の整備や病院システムの運用を行っています。業務の中には、機器の故障やシステム障害など、予測できないトラブルの対応もあり、また、障害が発生しないような努力も日々行っています。IT担当というと室内でひたすらパソコン作業を行っているイメージがあるかもしれませんが、身体を動かすことが多いことも特徴の一つです。具体的には、病棟で使用しているパソコンの不具合があった場合、現場で確認して故障診断から交換作業を行います。また、現在は新たなシステムの導入も担当しています。現場のニーズを把握し、取引先と交渉を重ね、診療業務の効率化を実現できるシステムの導入を目指しています。ビジネス要素が多いこともIT業務のおもしろいところです。

私は文系大学を卒業して、IT技術もパソコンスキルもありませんでしたが、先輩職員のサポートのおかげで日々成長を実感しています。身につけた知識を形に残したいと思い、資格も取得しました。ITイベントにも出張させていただきました。病院運営に情報システムは不可欠です。ITスキルの向上を目指していくと共に、多職種と協力してより良い病院運営を行っていくことを目標としています。



入社時から企画開発課広報係に所属し、テレビや新聞等のメディア取材の際にメディアスタッフと取材を受ける病院職員をつなぐ窓口となったり、市民公開講座や赤十字フェスタなどのイベント企画・運営などを行ったりしています。また、院内外向けの広報誌作成や病院ホームページ・Facebookの更新も行っており、病院の活動や取り組み、診療に関する情報を広く発信する役割があります。

情報をわかりやすく伝えるためには、世の中の動きや病院全体のことを知っておく必要がありますし、企画のアイデアや多方面との調整も必要となる仕事ですが、一つひとつの仕事を経験し学ぶにつれて、次第に自分なりの工夫や提案もできるようになってきました。上司に相談しやすい環境なので、悩んだときはアドバイスをもらいながら仕事を進めることができ、医師や看護師、コメディカル、事務などさまざまな職員と協力しながらアイデアを形にしていけるうちにやりがいを感じています。私自身がカメラを手に院内を回って取材を行うことも多いため、私生活でも写真を撮ることを楽しむようになりました。

「診療支援課」では、医師事務作業補助業務、診療録(カルテ)記載のチェック・管理を行う業務を行っており、50人近くの職員が働いています。医師事務作業補助とは、医師が行う事務作業を事務職員が代行して行うことで、診断書作成やデータ入力作業、学会発表に使用するデータ収集など内容は様々です。今まさに、医師の働き方改革への有効な手立てとして、最も重要視されている仕事の一つでもあります。

私は診療支援課に配属されてから、医師が研究や学会発表に使用するデータの収集・作成(いわゆる統計業務)等を行っています。配属された当初は、エクセルや院内のシステムに関する知識が皆無という、右も左もわからない状態でしたが、先輩や同僚に教わりながら、少しずつ知識を身に付けていきました。医療用語や、ITスキルなど、様々な知識が必要とされるため大変なことも多いですが、その分、学ぶことが多く、とてもやりがいを感じています。

また、出産も経験し、産休育休を経て職場復帰、現在子育てをしながら働いています。院内保育所を利用していますので、毎日子どもと一緒に通勤しています。復帰後しばらくは時短勤務で働かせていただきましたし、今でも子どもの体調不良などで急遽お休みをいただくこともありますが、病院の福利厚生制度や、周りの方々の温かいサポートがあり、仕事を続けることができていると思います。



教育研修推進課

江藤 真衣 [平成29年入社]



入社後、2年間は診療支援課の医局事務として医師の初期・後期研修についてや医学生の実習受け入れ、学会の施設認定などの業務を行っていました。研修制度や学会の認定制度など分からないことが多かったですが、先輩方に助けていただき日々成長することができました。入社3年目からは、教育研修推進課の配属となりました。教育研修推進課は、令和元年度4月に新設された部署になります。業務内容は、前部署でも行っていた初期・後期研修に関することや医学生の実習受け入れに加え、コメディカルや事務の実習受け入れ、院外研修に関する、全職員の研修に関することを行っています。新設された課ということもあり、新しい取り組みに向けての準備や課題も多くありますが、課員全員で案を出し合って取り組んでいるので、とてもやりがいがあり働きやすい環境です。

業務以外では、事務部の歓迎会・新年会や病院、支部、健管、血液センターの4施設合同の忘年会などがあり、そのような交流が業務にも役立っています。これからも、日々努力して多くの業務に取り組んでいきたいです。

長谷川 知美 [平成30年入社]

購入管理課

購入管理課は、高額な医療機器から安価な文房具まで、院内にあるほとんどの物品を購入・管理する部署です。院内で唯一、物品を購入する部署なので“どうしたら良いものを安く購入でき、安定した病院運営に貢献できるか”を考えながら業務に励んでいます。

業務のカテゴリーは大きく薬品・医療品・庁用品の3つに分類され、私は庁用品を担当しています。担当外の医療品(医療機器や診療材料)についての問い合わせに応じることも多々あり、聞きなれないワードに戸惑ったり、現場からの質問に迅速に回答できないときにもどかしさを感じたりすることもあります。他職種の方々や業者さんと関わる中で様々な学びがあり、充実した毎日を送っています。

請求された物品を安易には購入できないので、使用用途などについて分からないことがあれば担当者に問い合わせたり、実際に現場の様子を見せてもらったりすることもよくあります。自然と他職種の方々との関わりが多いので、院内で様々な人に声をかけられることや感謝されることも多く、とてもやりがいがある仕事です。





入社1年目は地域医療推進課に配属され、紹介予約や他院への紹介状の返事の管理、地域の医療機関とのつながりを深めるための連携の会の開催など、主に前方支援に関する業務を行いました。2年目からは医療社会事業課で社会福祉士として、入院された患者さんの入退院支援を行っています。

入退院支援では、入院される患者さんが安心して適切な医療を受けられるように、入院前から患者さんやご家族のお気持ちに寄り添い、退院後も安心安全な療養が継続できるように、療養に関する意志決定を支援していきます。

なかには医師や看護師、コメディカルなど、院内外問わず多職種が協力してチームとなり患者さんの治療や療養先の検討を行います。カンファレンス中は医療の専門用語が飛び交い、戸惑う部分も多かったのですが、先輩社会福祉士や看護師さんに助けられながら日々勉強させていただいています。

プライベートに関しては、比較的休みが取りやすい環境のため、同期とドライブに行ったり、美味しいお肉を食べたりと、とても充実しています。

患者さんの不安や心配事を少しでも多く安心に変えられるように、これからもチーム皆で協力していきます。



石田 彩奈 [平成24年入社]

地域医療推進課

地域医療推進課の主な業務は、①地域医療機関との連携推進、②紹介状の管理、③紹介予約の管理です。連携医療機関を招いた「地域医療連携の会」の開催や医療機関訪問、地域医療機関を対象とした研修会の開催を通じて電話や書面上でのやりとりだけではなく「顔の見える連携」を目指しています。地域の先生方から、緊急の情報提供や診療予約の依頼を受けることも多く、常に臨機応変で早急な対応が求められます。専門知識を要する場面も多く大変なこともありますが、その分感謝のお言葉をいただく機会も多く、モチベーションアップに繋がっています。また、紹介状に対する迅速、丁寧な返書管理も地域の医療機関との信頼関係を築くうえで大切な業務の一つです。

このような業務の一つ一つが信頼関係の構築、連携強化へと繋がっています。連携が深まることでかかりつけ医との情報共有もスムーズになり、延いては患者さんへ提供する医療の質の向上や病院に対する信頼にも繋がると考えています。



また、紹介患者数の推移により私たちの業務が患者獲得に直結していると実感でき、やりがいを感じるとともに日々の業務の重要性を感じています。

これからも地域と患者さんを選ばれる病院づくりの一助となるよう日々取り組んでいきたいと思っています。

救急業務課の主な業務は、「救命救急センター運営」、「国内災害対応」、「ドクターヘリ運営」があります。私は、主に「国内災害対応」について担当しており、災害対応に従事する職員の育成と災害の知識習得を目的として各種研修会・訓練を企画しています。

当院は、熊本地震でたくさんの傷病者を受け入れましたが、何とか乗りきることができました。これも、年間を通して実施している研修会や訓練によるものだと感じました。それと同時に私たちの業務の重要性について改めて気付かされましたし、責任とやりがいがある仕事だと感じました。熊本地震を経験し学んだことを生かして、災害対応のレベルアップを図るために、平時からの業務に取り組んでいます。

事務職員は、災害派遣時に出動する特殊医療救護車両を運転するために大型自動車免許等を取得しています。当院は、災害関連の各種資格取得に積極的に取り組み、有事に備えています。自分自身も医療救援に関する知識や経験を積んで病院に貢献できる人材になりたいと思っています。



業務以外では、休日に同僚とバーベキューをして楽しむなど職員同士の仲がとても良いです。また、硬式テニス部に所属しており、病院の専用コートでテニスをしています。心身ともにリフレッシュできるので、仕事とのメリハリがあり働きやすい職場です。

救援課

富田 真玄 [平成23年入社]



熊本赤十字病院は、日本赤十字社初の国際医療救援拠点病院として、「つくる そだてる やくだてる」を合言葉に、地球的視野で災禍を見つめ、積極的に医療救援活動に取り組んでいます。

救援課では、人道支援の最前線へ向かう職員の養成や派遣、派遣中の職員の後方支援に関する業務を日々行っています。また、自らが海外の被災地で活動することもあります。

私は、2017年と2018年に、バングラデシュにて避難民救援に参加しました。派遣中は、人事や会計の事務処理のほか、事業計画書の作成など事業運営に関する業務を行いました。

また、救援課では、これまでの経験を活かして、災害対応に関する救援手法や支援システム、救援資機材の研究開発にも積極的に取り組んでいます。

研究成果として、複数の特許を取得している他、様々な国際学会や国際会議にて発表を行っています。現在は、研究機関や一般企業等との連携を進め、研究内容の社会実装を目指しています。

